

令和元年度第5回月形町地域拠点施設整備等審議会 会議録

開催日時 令和元年11月29日（金）午後4時30分～午後6時30分
開催場所 月形町役場大会議室
出席委員 出席委員18名 欠席委員2名（別紙出席者名簿のとおり）
傍聴者 別紙傍聴者名簿のとおり
事務局 企画振興課
藤原参事、竹内課長補佐

- 1 開会
- 2 会長挨拶

9月の視察研修後、全体会議、グループ会議を経て審議を行っていただいた。事務局にて審議の内容を整理したので、今日は拠点施設の整備についてまとめていきたいので、審議のほどよろしく願う。

- 3 議事

- (1) 地域拠点施設の整備方針について

事務局（竹内課長補佐）より、議案P1～3により説明。

●会長

コンセプトにつきましては各グループ会議の内容をまとめた結果、このように「みんなが立ち寄り、安心・賑わいのある空間」という事で整理している。この内容で進めたいが、何か加えたり、意見があれば発言願う。

（意見無し）

●会長

では、この内容とする。

●会長

次に、一番の課題である拠点施設の建設地について。大方、月形小学校の敷地とする意見である。気になる点として、小中一貫校の問題が審議の中でも出ているが、審議会の答申に盛り込むというというのは別の問題である。答申書にどう表現するかは更に協議は必要であるが現時点では建設地として月形小学校敷地とすることで良いか。

（意見無し）

●会長

了解しました。

●会長

最後は拠点施設の機能ですが、多くの意見があり、整理が大変だったと思うが、資料記載の内容のとおりで良いか。修正点や意見があれば発言願う。

●香西委員

図書館を拠点施設に組み込むかどうかは重要で、相当のスペースが必要だと思う。各グループ会議においても、図書館機能は意見が多かったのかと思う。拠点施設における図書館機能として、雑誌等を配置する程度なのか、現在の図書館のスペースを確保して設置するのが良いのか、もう少し検討する余地はあると思う。

●会長

他に、図書館について意見を求めます。

●松山委員

図書館の老朽化が進んでいるのが一番の課題になっている。小中一貫校の整備の議論が進めば、学校の近くに利用しやすい環境で整備するという事も考えられる。

しかし、小中一貫校がどうなるかわからない状態で、図書館を現状のままにして待てるかどうかということに危惧する。

拠点施設に図書館機能を備えたとしたら、大規模のものではなくても、子供の遊び場とも関連させた中で、拠点施設に組み込むことが良いのではということで、グループ会議で議論してきた。図書館を備えるかどうか、大きな問題ではあるが、図書館機能を設けることには賛成である。

●梅木委員

私が参加したグループ会議においても、結果的には図書館はあった方が良いという意見となった。大事なのはコンセプトに沿ったものを考えるべきだと思う。そのコンセプトは、みんなが「ふらっと立ち寄れて、さくっと交流できる場所」であり、それに沿った施設を考える事が必要。

自分の考えは今までの図書館と違うもので、静寂感というより、江別市の蔦屋書店のようなオープンな雰囲気、みんなで交流してもいいような空間の図書館も良いと思う。

●鳥潟委員

図書館が必要かどうかを考えてたとき、図書館の使用は小中学生がメインではないかと思う。小学生、中学生は月形に住んでいて、高校生は町外からの生徒も多くバス通学者もいる。

今、高校生たちが町内で勉強する場所があまりないと思う。この拠点施設に学習ができるフリースペースを設ける意見もあったので、図書館とそうした空間とが一か所に全部揃っていることにより、利用しやすい空間ができるのではないかと考える。

●会長

他に何か。

●副会長

私自身も図書館で本を借りるのが大好きである。図書館利用は小学生、中学生、高校生だけではなく、大人も利用する。新刊の貸し出しも楽しみにしている方も多く、一般書籍では

なく生活に役立つような情報系のものや、お母さんたちは、料理とか子育て関連の本を借りる方も多い。今の図書館は、新刊や希望する本が比較的、早く揃えてくれている。非常に楽しみにしている利用者も多い。小・中学生だけではなく、大人の方も図書館を利用する機会が多いので、拠点施設の賑わいや、立ち寄りところとして、図書館機能は必要だと考える。

●梅木委員

別の視点で。例えば小中学校と図書館が一緒という考えを持つ人もいると思う。小中学校を新しく建設した際に、学校の図書室と兼ねたと図書館も考えられる。小中学校を今後どうするかということと、今回の拠点施設をどうするかということも避けて通れない問題である。大きな話になってしまい、大変だがそれを避けてしまうと中途半端な視点になってしまう気がする。

●矢原委員

実はこの件も含めて学校の所属長として要望がある。

小学校グラウンドに拠点施設を作ることについては教育活動に関わるいろいろな支障や心配がある。議案 1 ページ目の 1 の (2) に課題が示されているが、特に学校行事である運動会やマラソン大会が今までどおりできなくなる。それから今の遊具施設のおよそ半分、走り幅跳び用の砂場が撤去される。そして、子供達の安全面、工事期間中の作業が授業に集中できなくなるのではないかという心配、懸念事項について本校の保護者に対しても十分な説明を行って理解を得る必要があると思う。

本校の運動会は、幼児からお年寄りまで、地域の方々に参加していただいている大きな行事である。グラウンドは 100メートル走、保護者席、テント設営など必要な面積が確保できるのか、設計デザインの具体的な提示について学校現場の要求を聞く機会を含めて是非、説明会等をして頂きたいという要望がある。

今後そのような機会を設けて頂けるというお考えがあるかどうか確認したい。併せて小中一貫校設置の検討も一緒に考えて欲しいという意見があったが、小学校の移転が先という声もあったと思うが、これは教育行政に関わることなのでこの場では答えが出せないと思う。

小中一貫校の設置に向けて新しい校舎が建築されるかどうか見通しが示されていない中で、この拠点施設の計画も並行して議論が進むと、教職員も含め、児童、保護者の不安もあり、関心の高いところである。先程、各委員より図書館を小中一貫校の所に設置してはとの意見もあった。私も良い考えであると思うし、やはり切り離して考えることは難しい問題であると思う。個人的な考えではあるが、明るい展望や見通しがあれば、一定期間の制約や支障が出てくる部分はやむを得ないのではないかと思う。教育行政と連携した動きになる事を願うとともに、学校関係者、保護者等が理解・納得したうえで建築計画を進めていくことが必要だと思う。

●会長

今、校長先生から話があったが、再度グループ会議等で話し合いということは難しい。審議会としても前に進まないの、個人的には小中一貫校の件は答申書には載せるべきではないと思う。教育現場の話を審議する場ではないと思うし、4月1日から代替バスが運行して

いく中で、この問題は、審議会ではなく行政サイドで整理をお願いしたい。また審議会として場所を選定した時、住民に対して説明するような場を設けるということを考えていたと思う。

改めて、図書館については必要な機能という意見もあるので、拠点施設に設けるということが良いか。

●副会長

学校は学校の図書室であり、町の図書館と学校教育の中の図書室とは別に考えた方がいいのではないか。今の町図書館を誰が一番利用しているか分からないが、コンセプトである「皆が立ち寄り集う地域の安心と賑わいの空間」となると、皆が集いやすいところに図書館があるべきではないか。

●会長

学校に図書室があるので、町の図書館と違うという事で解釈しなければならないと思う。他にご意見ある方。

●本多委員

図書館は私もあったほうが良いと思う。5年、10年、15年、20年後考えると、どうなってるか分からない。どう使いたいかわ変わってくるかもしれない。図書館を建設するなら、できるだけオープンな感じで、後からでも目的を変えられるものとする。図書館を最初のコンセプトである「皆が立ち寄り集う」そこに持っていけないかと思う。

あとは拠点施設の整備や建設地について保護者対象に説明会は実際あるのか。

●事務局（竹内課長補佐）

どのタイミングになるかということで、審議会において一定の判断を出した中で、広く町民に意見を聞くということも考えられる。この審議会の意見も町民の意見でもあると考えている。一方、実際に建設を進める際は、当然、近隣住民や関係者への説明は必要になる。そういった場を設けずに進めることはない。先程、校長先生が言った、現在の学校のグラウンド等の活用方法や機能を著しく損なわれるような整備となるのかどうかは、行政内部でも一番に考えなければならないことであり、また住民の皆さんや保護者の方への意見も聞きながら進めていくということは、基本的に行政側として考えていかなければならない。

審議会として、さらに広く町民意見を聞いた上で最終の答申を出すという事も考えられる。

また、審議会として、これまで議論してきた中での課題や懸念事項を付帯意見として、答申していくという形もあり得る。町としては、そういったものを全て含めて、最終的に判断していくことになると思う。こういった場で議論されたことや、課題や懸念事項を無視した整備というのは避けなければいけないと思っている。

●事務局（藤原参事）

共通して、小学校敷地、図書館の併設ということである程度一致したのが大方の意見。

小学校の先生方の話で教育現場として教育環境の問題が出されたという事で、答申の中で

教育環境の確保という意見を付すことも考えられる。この案件の最後のまとめを皆さんに示して、最終的に答申するということになる。

●川田委員

私は審議会に参加している話を聞いて納得してるが、他の人たちは何も知らない。その中で拠点施設の建設地が小学校敷地となることに他の人は戸惑う。バスターミナルが出来たら、色んな人が来るのでどうなるんだろうという声もある。グラウンドが狭くなり、子供たちが今までのような運動や遊びは出来るのか、不安があるようだ。

子供をもつ側としては不安になる。子供達も不安にならないで親も安心出来るような状況にならなければ小学校敷地になったときには反対の意見が多くなると思う。

●会長

拠点施設の場所は小学校としても心配な事もあり、安全性の確保もあるが、審議会として、このまま決まらないで先送りすることは出来ない。

そこで、資料では学校教育環境の整備や道の駅の整備についても視野に入れた施設の配置や機能を踏まえて「整備・計画」という表現となっているが、こういった課題等があるということ踏まえて、「判断が必要」というような文言でまとめていくということで進めていきたい。よろしいか。

審議会としても、町民の大半が月形町の顔となる場所が、小学校の場所であると解釈していると思われ、校長先生の意見のとおり、心配の意見もあるが、行政サイドでもしっかりと判断をしてもらい必要がある。こういう話は必要であったし、よかったと思う。皆さんもいろいろ考える機会があると思う。図書館についても拠点施設の中に整備する方向とし、規模等についてはしっかりと考えなければならないが、基本的に拠点施設に図書館機能を設けていくということで進めるがよろしいか。

(意見無し)

●岸上委員

教育委員でも小・中学校校舎の老朽化の課題について理解しており、小学校では飲料水の問題で浄化装置の導入や中学校では廊下が寒いか、校舎の建て替え等の課題について正式に協議のテーマに挙げられている。ただ大きいお金が動くので教育委員だけで話ができることではない。この審議会の方が早いスパンで進んでいるが、教育サイドが静観し、この審議会の状況をうかがっている訳ではなく、校舎の建て替え等の課題についてはきちんと考えているということを承知していただきたい。

●会長

教育委員会でも議論が始まっているということで、近い将来進んでいくと思われる。

●岸上委員

長いスパンで検討しているということで。

●会長

長いスパンで今後検討していくということのようです。

●梅木委員

機能についてですが、図書館以外でももう少し審議したほうが良いともう事がある。

何を整備していくというのはある程度イメージがついているが、ソフト面を考えないと人が集まらなくなってしまう可能性がある。それだけは避けたい。今後、ソフト面も考える必要がある。例えば、この施設に来ることでポイントが付与されて、町内の買い物ポイントに使えるようなもの。イベント参加やコミュニティ活動で、ポイントがたまるような仕組みを考えるような話し合いがあっても良いと思う。

●会長

皆さんには、各グループ会議の結果をまとめた資料を確認いただいていると思う。拠点施設の青写真が出来て、実際に整備される段階で、こうした具体的な意見もふくめて、整備について町には検討してもらいたいと思う。あと機能について意見がなければ、拠点の方の整備コンセプト・建設地・拠点施設の機能についてはこのような形で整理するという事によるのか。刈田委員が言ったように、知らない方も多いので、近所や知人などに情報提供や意見を収集してもらいたいと思う。

(2) 道の駅の整備について

事務局（竹内課長補佐）より、議案P 4～6により説明。

●会長

拠点施設整備に係るグループ会議で、道の駅についても議論が出てきている。皆楽公園整備の議論でも道の駅について議論されることが予想される。道の駅の必要性について簡単には結論は出せないが、今後の議論を進めていく中で、道の駅の整備の考え方として、ここで一度議論しておきたい。

●鳥潟議員

グループ会議では「あってもいいけど・・・」、中身が道の駅としての機能が備われば整備しても良いのではという感じである。しかし、維持管理もしっかりと考える必要がある。

道の駅は24時間使用できるという事を考えた場合、例えばキャンプ場が近くにあって、トイレも共有できるというようなメリットが多く、町にとっても「これなら道の駅がやっていける。」という判断が出来れば整備しても良いと思う。そういったメリットが少ないのであれば、道の駅はそれほど必要ないと感じる。一瞬の盛り上がりはあるかもしれないが、長く続けることは難しいと思う。この話し合いの中でしっかりと議論し、必要性が見えれば整備しても良いと思う。

●西山委員

道の駅の建設位置について、道道や国道の道路管理者との関係はどうなるのか。

●事務局（竹内課長補佐）

自治体が勝手に整備できるものではなく、資料でも示したとおり道路管理者の開発局等との協議を行って整備計画をたてていく必要がある。道路管理者とともに整備する形もあり、自治体だけの想いでは作れない。道路利用者、ドライバーの休憩機能が前提条件なので、道路利用を無視したような施設はないものと認識はしている。関係者との協議、相談、連携が必要である。

●谷口委員

道の駅を作るのであれば、普通の道の駅ではなく、ここに書いてあるような地域連携機能とかは当然で、近年の道の駅であれば地元のスイーツを販売したりする特徴を出していく施設が当然のようにになっている。

自分は、地域の歴史継承が重要であると思う。岡山県の道の駅を新たに整備するために、調査した時、その地域は昔、宿場町として大名行列が通り、今もなお宿場町が少し残っている。その横に道の駅を整備して市街地が衰退している状況をその宿場町と連携しながら道の駅を整備するという構想があった。最近では当別町が道の駅を整備して、色々な取り組みを行っており、当然、地元の特産品等を販売している。普通の道の駅と違う発想で運営していかないと意味がない。道の駅は多く存在し、差別化が必要である。

月形町は樺戸博物館があり、そこへ誘導できるような施設計画、誘導、場所を計画し、町外からの来訪者をまち中へ誘導するような設計をした方がいいのではないかなと思う。博物館を活用し、観光客等が街中を見てもらうような道の駅がいいと思う。この発想も岡山県のマネになるが、こういった歴史を活かした道の駅はないと思うので、せっかくの歴史文化を大事にした方がいいと思う。

●北嶋委員

道の駅の整備の場合、整備は町の持ち出しがあまり無い中で出来ると思うが、運営費において町の持ち出しが年間2000万円、3000万円がないと運営できないという施設であれば難しいのでは。道の駅の場合、道路の交通量でおおよその売り上げが推測ができるので、どの位の収入があつて、どのくらい経費がかかるのかを考えないと難しいと思う。

●副会長

道の駅って言うと皆さん建物をどこに建てるのかということに執着しすぎているように感じる。

月形町はそんなに大きくない。月形の良いところをアピールするためには、皆楽公園の自然とか樺戸博物館の歴史など、町全体を道の駅みたいな感じで、月形町がどうしたらよくなるか毎日考えている。

今、建設しようとしている拠点施設は、ふれあいですよ。月形町全体を総合的に道の駅と考えて、一つは「ふれあい道の駅」、これから建てようとしていく拠点施設を。そして観光、

自然、「皆楽公園道の駅」これが二つ目です。大人も子供、老人も「遊ぼう」というテーマで考えた。そして歴史文化の樺戸博物館で、「歴史を語る道の駅」。これは私の考えですけど、他の皆さんいろいろ良い案をもっているかもしれないが、私はこの3つを全体、総合的に考えて町全体が道の駅という発想で、どこに建てるかじゃなくて皆さん拠点施設はここに建てたいなっていう希望が皆さん固まって、皆楽公園はこれからリニューアル関係の話し合いがある。だからそっちの方は、今の皆楽公園を皆で楽しめるようにし、それから歴史は今の博物館、JRの歴史を忘れないように資料を作って、町全体が道の駅みたいな発想をもっている。やっぱり一つの建物に「道の駅」と名前をつけたほうがいいですか？

●会長

拠点施設と皆楽公園の整備について、それぞれを議論する事が必要である。前回グループ会議でも拠点施設の整備の議論をしていますが、必ず道の駅の話になってしまう。次の皆楽公園の再整備の議論になっても、やはり道の駅を絡めた話になってくると思われる。

そこで、必要なか必要でないのか、すぐに決めれないが、全体で道の駅をどう考えていくかを、意見を出し合うということで今回、議題にした。先ほどの鳥潟委員の意見のような考え方が基本になるのかなと思う。金銭的な面もある。

●西山委員

町全体が道の駅というより、道の駅ということになれば、やはり長距離ドライバーの休憩、トイレ、月形町内の特産品の販売等、そういったもので、町全体というより一つの施設が道の駅とする方がいいのでは。

●副会長

町の名産品とか、いろんな物を販売をするのも、利益を出すのも大事ですが、それもどこにお店を出すのかっていうことも必要性も含めてこれから考えて決めていかなければならない。それは当然で、皆楽公園にするのか、拠点施設にするのか、ただ建物を建てたらお金がかかり、5年くらいでお客さんが来なくなるとかの話ばかり皆さんするので、そうではなくて一つの所に建物を豪華に建てるとかではなく、町全体が、歴史がある町だから、町全体で観光や人とのふれあいや文化も残していくということを考えた。建物を建てるのはお金もかかるし、一時的にしか儲からないのではという懸念もある。

●谷口委員

非常にいいご提案で、もし名称をつけるのであれば「町が駅」ということになると思う。町にワンストップして下さいという発想ではないかと思う。可能な限り町を回遊してもらって月形町のいいところをみてもらう一つの駐車場みたいなところが今の時代にはいいんじゃないかと。副会長はもう一つ上の概念として大きなイメージであり理想だと思う。

●松山委員

道の駅も重要であるが、皆楽公園の整備をどうするかということも大事である。これからの道の駅について考えることになるが、皆楽公園の整備の方向性によって道の駅の構想が変

わってくると思う。だから道の駅をしっかりと考えるためにも、皆楽公園の整備を考えてそこから、バスターミナルの件も目途が立ってきたので、そういうことを考え、色んな事にリンクしながら道の駅として成り立つものができるのかどうかを考えていくほうがいいのではないかと思う。

●香西委員

今の議論は必要か不要かをまず話そうという事で、詳しい話はこれから班に別れて話すが、要は今の現状のまま行くのか、我々が議論して、良い施設が出来るんだったら「いいよね」ということだと思う。結局、町として現状のままでも良いということであれば不要であり、審議会ではみんなで議論して、町にとって良い道の駅ができるのであれば、作ろうという方向性を出すということではないかと思う。

●会長

グループ会議の資料の中でも拠点施設の場所で、将来的に小学校の移転があったときに拠点施設を絡めて段階的に道の駅を整備するという事も議論されている。

最終的に、道の駅の整備を決めるのは審議会ではなく町であり、町議会だと思う。必ず道の駅を絡めた議論で進んでしまうので、道の駅整備の議論の方法について、委員皆さんの認識を一つにするということで今回、議題にした。松山委員の発言のとおり、皆楽公園の整備の議論を踏まえた上で、町として道の駅の必要性やあり方をまとめていくと進めていきたい。

(3) 皆楽公園等周辺施設の整備方針について

事務局（竹内課長補佐）より、議案P7～8により説明。

●会長

皆楽公園の整備について、老朽化が進んでいる施設等の改修の必要性、公園全体の管理運営の体制など、時間を要する案件でかなり大変だと思いますが、皆楽公園のターゲットを町民なのか観光客なのか、再整備に必要な規模など、審議の内容が多岐に渡ると思う。

よって、拠点施設の整備の議論と同様に、グループ会議が必要となると思う。今回、全体会議の場で皆楽公園の再整備の方針について、意見を伺いたい。

●西山委員

質問ですが、皆楽公園の運営については、現在は振興公社が行っているのか。議会からも役員がでてと思うが議会からの意見も踏まえた中での運営となっているはずであるがそのあたりはどうなっているのか。

●事務局（藤原参事）

皆楽公園エリアは温泉、ホテル、公園、パークゴルフ場、野球場、多目的アリーナ、農産物の加工施設、エリア一帯を株式会社月形町振興公社が月形町から指定管理を受けて管理をし

ている。現在、温泉と宿泊施設に関しては1年契約で町から指定管理を受けている。

●西山委員

現在も公社へは議会から役員として議員が派遣されているのか。

●事務局（藤原参事）

現在、議会からは、取締役ということでの議員の派遣はない。一般の方が取締役に就任している。

●梅木委員

ターゲットの選択ということですが、まず、どういう目的で皆楽公園があるのかを考える必要がある。皆楽公園がどういう目的で存在し、どういう目標になってくるのか。目標を達成するために皆楽公園がもっている力はどのくらいかを考えた場合、現状を踏まえた戦略が必要。その戦略によって誰をターゲットにするかということを考えることが必要で、皆楽公園が何のためにあるのかも考えないといけない。

考えるのは深いし、時間がかかって難しいが、そこから考えないと議論するのも難しい。

そのために、ターゲットがあってそのターゲットを得るためには、どのような施設をどうするのかを考えていくのが一番である。

町から示された皆楽公園の整備にかかる費用は相当の金額で厳しい状況である。改修の一つとして外観の改修等が挙げられているが、外観を改修等で一時的にはお客さんは増えるかもしれない。例えばホテルは一人客が多くて、客室は埋まっているが一人客であるためそれほど収益が上がっていない状況。ビジネスマンであれば一人客となるので消費金額も少なく赤字の要因にもなっているのではないかと。また、温泉売店や公園の管理方法にも課題が多い。そういった現状を改善するところから始めることも必要では。

●会長

他にご意見あれば。

●鳥潟委員

温泉利用は町民が多いと思う。

今の皆楽公園の現状を見ると、誰がお金を使うのかというとキャンプ利用者が大きい。宿泊は合宿利用者も多い。町外利用者はキャンプや合宿がメイン層だと思う。そうなれば極端な話、そうした合宿利用等の客層を取り入れるために、総合体育館まではいかないが小さな運動場のような物を整備することも考えては。

●廣野委員

皆楽公園ができた経緯として、月形は歴史があるが、町民の憩いの場がなかった。旧石狩川を整備した公園は、私の記憶の中では町外の利用者ではなく、町民のためというのが一番だった。現在の町外来訪者をターゲットに現在の皆楽公園の事を考えると、多目的アリーナを利用する合宿と、温泉の宿泊客、キャンプ場利用者など、外部からのお客さんの消費活動

等も考える必要がある。夏場のキャンパー、夏祭りの花火、非常に混み合っている。ただ一つの方向からだけでなく、多目的に見た方が色んな事が見える。それを全部、満足させるようなことになるとう莫大なコストがかかってしまうので、その中から抽出するしかない。

●北嶋委員

資料の7、8ページを見ると具体的に固まっている状況でこれを具体化する為に何か話し合うというスタンスなのか。

●事務局（竹内課長補佐）

現在、皆楽公園を再整備をしていく上の一つの手法、整備内容として提案をさせていただいており、すべて取り込むのではなく、現段階として何かしらの再整備、利用促進といった手法の一つとして提案している。これに肉付けしたり、整備というのを審議会の方から意見を頂いたうえで再整備について進めていきたい。斬新で思い切った意見、行政が気づかない部分、新たな可能性もあると思われる。内容は確定ではなく、多くの意見をいただきたいと思っている。

●北嶋委員

個人的な意見だが、資料7、8ページの内容は盛だくさんで、これに加えて新たに道の駅を整備していくというのは難しいのではないかという感想を持っている。

●会長

ターゲットが町民なのか、町外なのか、全体での議論では、話しが進まないで、グループ討議という事で進めていきたいと思う。

グループ会議については、前回と同様のメンバーとして、12月は皆さんお忙しいと思いますが、12月中にグループ討議を実施したいと思います。この会議が終わり次第、皆さんの日程調整を行って開催日を決めてほしいと思う。12月中にまとまるかは分からないが大きな話なので1月入った段階で、全体会議を開催する方向で進めたいのでよろしく願う。

これで、第5回審議会を終了する。

月形町地域拠点施設整備等審議会委員 会議出欠名簿

会議 第5回審議会

日時 令和元年11月29日(金)開催

場所 月形町役場大会議室

委員区分	所 属 等	氏 名	審議会
条例第3条第2項の1号委員 ※町の区域内の公共的団体及び関係機関の会員又は職員	月形商工会青年部 副部長	香西 雅之	○
	月形商工会女性部 副部長	土井 町子	○
	月形町農業協同組合 専務理事	福井 誠	○
	月形町農業協同組合女性部 部長	中村 三賀子	○
	月形町社会福祉協議会 事務局主任	齋藤 貴子	○
	月形町老人クラブ連合会 会長	西山 雅俊	○
	月形観光協会 会長	廣野 和男	○
	月形町校長会 会長	矢原 雄平	○
	月形町PTA連合会	刈田 廣美	○
	月形町赤十字奉仕団 委員長	松山 俊子	○
	NPO 法人 コミュニティワーク 研究実践センター 事務員	熊倉 なみ	○
	市北行政区 理事	高島 康典	×
	月形刑務所 看守部長	本多 大輔	○
社会福祉法人 札幌会つきがた友朋の丘	鳥潟 慎太郎	○	
条例第3条第2項の2号委員 ※識見を有する者	月形町教育委員会	岸上 希央	○
	北海道科学大学 工学部 建築学科 教授	谷口 尚弘	○
	(公財) 北海道観光振興機構 地域支援本部 地域観光部長	生川 幸伸	×
	(株) 道銀地域総合研究所 地域戦略研究部 業務部長	北嶋 雅見	○
条例第3条第2項の3号委員 ※公募による者	農業	山田 啓一	○
	会社員	梅木 悠太	○